

国産3Dプリンターが10台以上！

# おおたfab

片っ端から  
何でもやってみる毎日

マリコさんは、上場企業にお勤めにも関わらず起業されました。どのような想いでファブラボを開くことになったのでしょうか。

当時、私の周囲では定年まで勤め上げるという意識で働いている社員が圧倒的多数でした。それはそうですよ、お金の事を考えたら、会社に残った方が良くに決まっていますから。ただ時代もあり、大組織の中で仕事のやりがいや創造性を発揮し続けるのは難しいとも感じました。そのような自分への疑



順調に利用者が増えた為、駅から近い場所に移転する事になりました。同時に面積もかなり広げ、コワーキングスペースも併設できる広さにアップグレード。当時から会員さん同士の交流が盛んだったので、もっと深めて欲しいと思い、作業場やイベントスペースの確保を意識していました。

## おおたfabの誕生

3Dプリンターをシェアできる場所から、ワークスペースや作業スペースもシェアできる場所にステージアップしたんですね。どんな会員さんが利用されますか？

本当に個性豊かな方々ばかりなんです。趣味としてハンドメイドを楽しんでいる方も居れば、本気で事業を起こしている方も。

問が大きくなるにつれ、何かに挑戦したいという気持ちが湧き上がりました。

長いものに巻かれるのを良いとしない、私のようなタイプは起業した方が良いのではないかとこの自負もあつたように思います。子供もちょうど手が離れてきた頃で、チャレンジするいい機会だと思いました。ちょうど創業の頃、様々な偶然が重なり、3Dプリンターの部品を作るとい話が舞い込んできました。

その流れで3Dプリンターの開発を手掛ける事に。

## 無我夢中で楽しい時間。

起業や開発というと真つ暗なトンネルの中を走っているような、暗中模索の苦行道というイメージがつままどうものですが。



機械で作るものであったとしても、作りたいという気持ちが昇華できたら、楽しいハッピーという気持ちになるんだと思うんです。そんな創りたい想いを共有するからか、会員さん達はユーザーでありながら、おおたfabの相棒的な存在でもあります。

一緒に時間を過ごす中で、共に成長していると思える瞬間も多々ありました

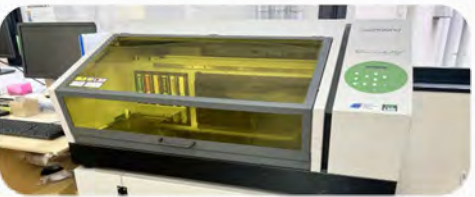
## 部活動みたいですね。

そう、それはすごくあると思います。ご自身のやりたい事を試行錯誤しながら実現したいという方にとつては、整った環境だと思えます。ここにはファブラボが好きで、ボランティア的に相談に乗ってくれる優しい会員さんも多いですから。

正直、そんな気持ちはなくて。営業経験がゼロだったものだから、何もわからない。だから、片っ端からなんでもやってみる毎日でした。

逆に無我夢中で楽しい時間のほうが多かったかも知れません。会社員時代に、プロジェクトマネージメントは数をこなして来ましたので、その経験を駆使して試行と改善を繰り返していましたら、プリンターの開発は手探りながらも完成を迎えることができました。

2013年に国産のパーソナル3Dプリンタ「DS・1000」を開発されましたね。たった4人で2ヶ月間で3Dプリンターを開発されたのは凄いいと思います。そのストーリーを上梓された書籍も大変面白かったです。  
(左下にキンドル版への案内を掲載)



画像提供/ おおたfab © ot-fb.com

プリンターの知名度が上がるにつれ、なんだか変わった方がいっぱい来ましたよ、お金を調達して上場しませんかとか。電話もいっぱい鳴るし、忙しくなりました。そういう意味では結構PRに成功した方じゃないかと思いますが、じゃあ利益がついてくるかと云うと、そういう訳でもなかったです(笑) プリンター開発から2年後、もっと3Dプリンターを沢山の方に使って欲しい想いで、大田区にファラボスペースをオープンすることに。

3Dプリンターだけでなくカッティングマシンや工作機械を備え、試作や開発の手助けになる市民工房です。幅広く活用して欲しくて作った場所でした。

「おおたfab」誕生です。



▲  
おおたfab文庫  
会員同士で出版した書籍

明日のワタシをつくる 起業 副業入門  
ふつうの元会社員が2か月で3Dプリンタを  
開発したはなし (おおたfab文庫) Kindle版

小箱ショップなど、  
軽やかに新しい事を  
始めていらっしやいますね。

最初のファブラボ(2015年梅屋敷でスタート)の時から会員さんの中には、今以て主要メンバーとして活動してくださる方も。勉強会を開いたり。会員さん同士で、レーザーカッターの書籍を執筆して出版したりもあるんですよ。

そういうつながりが勝手に広がって、勉強会やランチ会が開催されて、知見の循環が生まれています。

単にサービスを受けるだけではなく貢献もしつつ、参加もしてくださる方が集まってきています。

だからこそ、そういったものづくりの精神を理解してくれる会員さんが増えてくれたら、本当に嬉しいですね。

私自身も、ずっと刺激を受けています。単純にミスター的な興味でもあるんですけど。

マネーゲーム的なものには興味が無いし、今は、いろんなアイデアの中から、取捨選択して選りすぐったプロジェクトだけをやっています。そこは趣味みたいなもので、私自身も楽しみながら。「小箱ショップ」はそのうちの一つですね。

今は何でもデジタルで、オンラインの時代ですが、それをもうちよつとアナログに引き戻したら、もっと心豊かに生きていけるんじゃないかなと思うようになりました。